



寺紋

ひいらぎ 柎 かこみ沢瀉 おもだか
(通称 大関沢瀉)

大雄寺報

＝ 第 10 号 ＝

平成 23 年 1 月 1 日 発行

発行所 黒羽山 大雄寺

〒 324-0233

栃木県大田原市黒羽田町 4 5 0

TEL 0287-54-0332

FAX 0287-54-0330

編集発行人：住職 倉澤 良裕

印刷所：タキザワ印刷



大関増業 企画展



結制上堂・首座法戦式



文化財保存修理事業



カナダ禅ワークショップ

***** 目次 *****

結制上堂・首座法戦式	2 頁
文化財保存修理事業	4 頁
大関増業 企画展	6 頁
てらスクール	7 頁
昨年度の活動	8 頁
平成 23 年の行事予定	9 頁

けっせいじょうどう 結制上堂・首座法戦式

黒羽山大雄寺において十月十九日、二十四日、二十五日に結制上堂、首座法戦式を挙行致しました。

おかげをもちまして、滞りなく式が終了致しました事をご報告申し上げますとともに、式典にご協力ご支援頂いた檀信徒をはじめ関係者方に深く感謝申し上げます。

二十五日は小雨が降る中、結制上堂、法戦式が執り行われました。お足元の悪い中、ご遠方からも多くの檀信徒や寺院関係者にご参列頂きました。

今回の式典は一世一代であると共に曹洞宗独特の式であるため、僧侶にとつて大変重要な意味を持つ儀式であります。

まず、結制上堂では結制を行うに当たり慧巖良裕和尚が弘子を持ち、須弥壇（本堂正面の壇）上上がり香を焚きながら仏法を説きます。その後、須弥壇上から若い僧侶達と禅問答を交わしました。

また、式の終盤では大雄寺筆頭総代である高梨義彦様をはじめ、多くの寺院様より祝辞を頂きました。

当山住職でもある慧巖良裕和尚は今回の式を期に緋の衣着用の許可を得ると共に和尚から大和尚の位となりました。

また、法戦式においては禅僧たる力量を量るため徒弟文堯が首座の位をとめました。大声を張り上げ、多くの

禅間に答えられ一人前の僧侶になるための第一関門である首座をとつとめ、大雄寺三十八世後継者として認められることとなりました。

小雨も上がる頃、両儀式の張りつめていた空気も和み、決意を込めた儀式が無事終了致しました。



大勢の檀信徒の皆さまにご参加頂きました。

式次第

- 十月十九日(火)
制中配役行茶 午後四時より
本式典で勤める役職と僧侶の名前を読み上げます
● 首座入寺式 午後四時三十分より
● 首座(徒弟文堯)が大雄寺に入る式を禅堂で行います。
- 十月二十四日(日)
● 土地堂念誦 午後三時より
招宝七郎大権修理菩薩様の御前にて挨拶を致します。
- 首座本則行茶 午後四時より
法戦式の前に配役を発表し皆でお茶を頂きます
● 法話 午後四時三十分より
結制上堂・法戦式についての説明を致します。
- 十月二十五日(月)
● 結制上堂 午前九時より
住職が須弥壇に登り禅問答を交わし法座を証明されます。
- 首座法戦式 午前十時より
首座が住職に代わり禅問答を交わします。
● 檀信徒総観経 午前十一時より
檀家の皆様のご先祖供養をお祈り致します。

祝辞

本日は、錦秋の佳き日に私達檀家の菩提寺、大雄寺におかれましては、結制上堂の盛儀を滞りなく成就されまして誠に慶賀の至りに存じます。

檀信徒一同を代表いたしましてお祝い申し上げます。

皆様ご存じのとおり、大雄寺は応永十一年、余瀬に創建され爾来六百有余年、途中天正四年、時の十四代藩主大関高増候によつて現在地に移築されて四百三十余年、大関家の菩提寺として室町時代の建築様式を今に残し、昭和四十四年には七堂伽藍が栃木県文化財に指定されました。綿々たる歴史をもつ私達檀家の誇りとする寺院であります。

今日ここに結制上堂の儀式が成り、三十七世住職良裕和尚は大和尚として、首座法戦式を決意の元に立派に努め上げるであろう文堯和尚は後継三十八世として大雄寺の隆昌に励まれることでありましょう。そして、その脈々たる歴史を後世に継承していくことを祈念する次第であります。

尚、この重要でおめでたい儀式に本山及び多くの御寺院様に大層な御支援御協力をいただきましたこと、檀家一同に代わり衷心より感謝申し上げます。有難うございました。

本日は誠にめでとうございます。
平成二十二年十月二十五日
大雄寺檀信徒総代 高梨 義彦



ご寺院様と共に 大雄寺 三十七世 慧巖良裕結制上堂 平成 22 年 10 月 25 日



役員様と共に 大雄寺 三十七世 慧巖良裕結制上堂 平成 22 年 10 月 25 日

結制上堂を終えて

倉澤 良裕

黒羽山大雄寺において、去る平成二十二年十月二十四日、二十五日結制上堂、首座法戦式が厳肅のうちに無事円成できましたことに心から感謝申し上げます。

この結制上堂、首座法戦式を厳修に際しましては、最勝院東堂和久井行雄老師を西堂位に拝請申し上げましたところ、快く御承引賜り、また、大本山永平寺御專使黒田俊雄老師、大本山総持寺御專使堀内憲純老師はじめ、諸山の諸老師の御随喜を賜り、厳肅のうちに挙行することができました、心から感謝申し上げます。

檀信徒各位様には、並々ならぬ御法愛と御厚誼を頂戴し、また、大勢ご参列を頂きましたことに、衷心より厚く御礼申し上げます。

思えば、わが曹洞宗宗門が七百有餘年の伝統を掲げ得ますことは、実に先師・千徳が綿々尽きることなく法灯を護り続けてきたことに外なりません。大雄寺六百年の歴史も歴代住職による慈化教化と檀信徒の皆さま一人一人の厚い信仰心と御先祖への供養の心から菩提寺の護持発展を願ひ続けてまいりました。法灯の重みをより一層強くするものであります。

本日の結制上堂、首座法戦式という一世一代と申されます大切な法要が本年（平成二十二年）此の時期にできま

すことは仏縁のお陰と感謝いたすところであります。

私、平成三年に前任職徹庵良一大和尚から三十七代住職を継承し、二十年になるうとするこの期に、長男文亮を首座として、弟子として迎えることができましたことは安堵の気持ちであります。

素より浅学菲才の身であります、檀信徒とお寺が一体となり寺院の護持と心の安寧に全力を傾けていく覚悟であります。

この度の法要を挙行するにあたりまして、檀信徒の皆様のご理解とご支援を賜り、特に総代、役員様には一方ならぬ御協力を頂きましたことに、重ねて深く感謝申し上げます。



合掌



法戦式を終えて

徒弟 文亮

思えば約一年前父である住職から式典の内容を聞きました。

私は大雄寺にはいませんでしたので、住職である父が式典に向けて膨大な量の準備や手続きを進めてくれました。

五月より大雄寺に入り、僧侶としての生活を始めました。同じ場所であっても十代の頃過ごしていた生活とは全く異なる生活が始まりました。

式典の練習は朝の読経の前や空いた時間を見つけ行いました。

式が近づくにつれて、随喜頂く寺院の方々を交えての習儀（練習）や大雄寺総代会や役員会での式典の打ち合わせを行いました。

まだ生活も慣れていなかった事もあり、忙しい毎日の中であつという間に当日を迎えたように感じます。

大雄寺に戻る事は私にとって大きな決心でしたので、今回の式典では新たなスタートとして決意を込めて臨みました。

法戦式を無事に円成した時は安堵したのと同時に感謝の気持ちで満たされました。

今回の式には大雄寺総代方をはじめ檀信徒の皆様、法戦式に駆けつけてくれたご寺院様、親族、当日来山できずとも心から応援して下さいの方々、そして何より、当山の住職の支えとお力添えを頂き挙行できました。

この感謝の気持ちを忘れず、大雄寺後継者としての責任を持ち僧侶として全うしてまいりたいと思っております。ありがとうございました。



文化財保存修理事業

平成二十二年度文化財保存修理事業は、栃木県より平成二十二年八月二十三日、大田原市より平成二十二年八月二十七日付けで補助金の交付を決定頂き、文化財保存修理事業に踏み切った。今回の保存修理においても補助金に加えて大雄寺檀信徒、並びに参拝者による浄財の「伽藍保存基金」より保存修理事業を行っております。修理該当箇所としては「回廊・鐘楼堂」の二カ所となり、平成二十二年九月二十二日より着手しました。

今回の修理を担当し、協力して頂いているのは多くの重要文化財を手がけている宮城県石巻市(銚熊谷産業)です。

現在の大雄寺の伽藍は文安五年(二四四八年)より現在まで約五六〇年間保存されてきております。昭和四十四年には栃木県有形文化財として指定を受け、より一層希少な有形物として認知されてきました。伽藍の縮小や宝物の売却などが検討される厳しい時代もありましたが、私たちのご先祖様が乗り越え残して頂きました。私どもの出来る限り後世に残していきたいよう尽力いたしますので、どうぞご理解とご協力のほうを切にお願い申し上げます。

下野

後世につなぐ かやぶき屋根 ふき替えへ

大田原の大雄寺 20年ぶり回廊と鐘楼



かやぶき屋根のふき替え作業が進む回廊



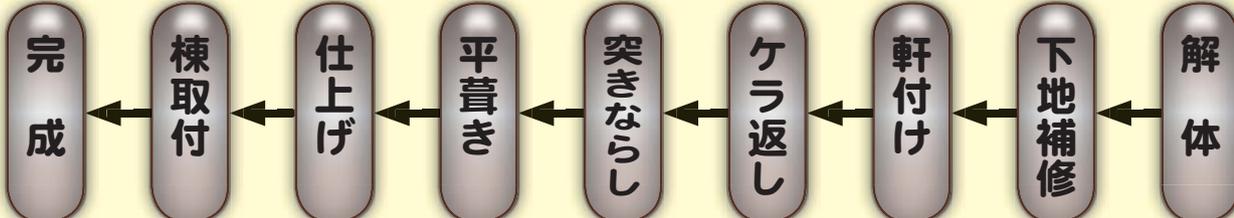
【大田原】黒羽田町の大雄寺で、県指定文化財の回廊と鐘楼のかやぶき屋根の改修工事が進んでいる。ふき替えは約20年ぶり、12月中旬ごろ完成予定。ふき替え職人が減っているため、宮城県内の職人を呼んだ。回廊部分にやぐらを組んで、古くなったかやを除去、貴新しいかやを屋根に敷き詰める作業に汗流している。同寺は室町時代後期(1448(文安5)年の建築。本堂、禅堂、庫裏、回廊が曹洞宗特有の「七堂伽藍」とい

う配置で並ぶ。かやぶき屋根は創建当時の面影を残し、春秋には境内を訪れる人も多いとい。

昨年は漆門などのふき替えを実施。今回の改修費は総額約1200万円で、県・市などの補助のほか檀家も寄付した。倉沢良裕住職は「皆さんの協力が大変ありがた。かやぶき屋根の寿命は約20年だが、貴重な文化財を後世に残していきたい」と話していた。

「下野新聞 平成22年11月19日付より」

茅葺き作業工程



(有)熊谷産業とは？

(有)熊谷産業様と大雄寺の関係は平成三年総門屋根の保存修理からになります。

(有)熊谷産業様は宮城県石巻市北上町に本社を置き、数多くの国宝・重要文化財保存修理工事、茅葺屋根工事を請け負っておられます。一九四八年に設立されてから、日本建築学会文化賞、文化庁長官賞、黄綬褒章を受賞され現在も茅葺き屋根を守りご活躍されています。(有)熊谷産業様の使用する茅は山茅と呼ばれる麦ワラや稲ワラとは異なり、浜茅といわれ、水辺に自生するヨシ(アシ)を使用しております。

海水と真水の混じる箇所には自生する固く丈夫なヨシは宮城県の北上川河口より刈り取られ茅として使用されております。

茅葺屋根の少なくなった現在の日本においては希少価値の高い茅葺のプロ集団であります。



北上川河口の葦(ヨシ)

作業風景(回廊)



茅職人さんへの一言質問

Q. 簡単な自己紹介をお願いします。

A. 武山貞範です。職歴は19年目になりました。大雄寺には平成7年の葺替より参加しております。

Q. 茅葺き職人としてのやりがいと苦労する点はどんなところですか？

A. 天然の素材を使用していますので、自分のイメージ通りに葺き足や雨の流れをそろえるのは大変苦労します。しかし、それもやりがいの一つです。又、回りの生活も代わり、竹や木の皮など資源の入手が年々難しくなっております。

Q. 大雄寺に使用している茅について教えてください。

A. 宮城県北上川河口の浜茅を使用しています。今回の葦(ヨシ)は一昨年12月~昨年4月に刈り取ったものです。

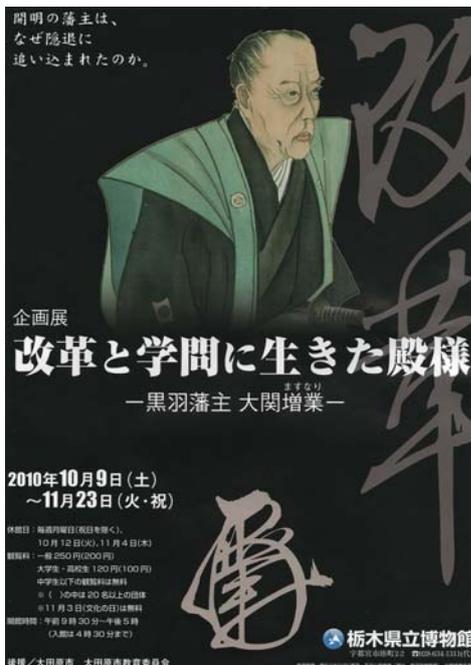
Q. 最後に茅葺き屋根の魅力をお願いします。

A. 趣のある存在感ですかね。いずれ土にかえる身近な素材(自然にやさしい)で葺いてあるというのも魅力の一つですね。

以上になります。ありがとうございました。

大関増業企画展

「改革と学問に生きた殿様」



二〇一〇年十月九日から十一月二十三日まで栃木県立博物館において企画展「改革と学問に生きた殿様—大関増業—」が開催されました。

開明の藩主と知られる大関増業ですが、今回の企画展では藩政資料など増業に関する資料を一堂に集め、彼の一生と事績の全体像を紹介しております。

二〇〇四年に催された大関増裕の企画展と同様に黒羽藩主の企画展ということもあり、大雄寺からも増業に関するいくつかの宝物を展示されました。

期間内には担当学芸員の方々による講演会や関連講座等も行われ、大変有意義な企画展となっております。



黒羽城郭図



救世大師（観世音）像



柘困沢瀉ならびに八重梅鉢紋入蒔絵膳



大関増業展と新井学芸員の講演を聴く

大雄寺主催の見学旅行に参加して

和久井 隆二

栃木県立博物館の今回の企画展は「改革と学問に生きた殿様—黒羽藩主大関増業—」でした。

大雄寺の檀家の皆さん、そしてその関係者の皆さんと一緒に参加させて頂きました。

大雄寺からは「黒羽城廓図」や「救世大師（観世音）像」など多数の文化財が貸し出され、展示されました。

私たちが見学したのは十月三十一日でしたが、最初に黒羽芭蕉の館学芸員、新井敦史先生の講演「辺境の大名大関氏と黒羽藩の時代—大関氏の資料保存と増業—」に熱心に聞き入りました。

大関増裕の活躍に始まり、歴代のお殿様の活躍や歴史の流れの中での藩政改革や出来事など、そして最後に大関増裕の活躍など多岐にわたり素晴らしい講演を拝聴することができ、大雄寺一行も感激の一言であったと思います。

講演終了後、企画展を見学しました。

今回の企画展は黒羽藩家老瀧田家に残された数多くの日記により、これらを軸にした資料収集や展示が行われました。

オープニングの記念講演会の席では、瀧田家の子孫瀧田孝太郎氏、当山住職倉澤良裕氏が来賓として紹介されました。

黒羽という片田舎のわずか一万八千



石の小大名である黒羽藩大関家ですが、地域にとらわれず、広い世界で活躍した藩主やその重臣達、そして画家等の文化人も多数輩出しています。

今回の企画展で、県はその中の一人（黒羽藩主大関増業）を表舞台にだしてくれました。黒羽にとっても大変ありがたいことです。歴史と文化の香り高い郷土に住み、わが故郷をあらためて誇りとしたいものです。

参加者二十四名全員無事に事故もなく、有意義な一日を過ごして帰着しました。最後に今回マイクロバスを出して下さり、色々ご手配頂いた大雄寺様に深く感謝いたします。

てらスクール



「茅葺き屋根の下で

夏休みを

お寺で過ごして」

佐藤 浩一

真夏の厳しい日差しを受けながらも、笑顔で参加者が庫裡に集まってきました。今年で五回目の「てらスクール」。雄禅会での話し合いでデジカメ教室を開催する事に決定しましたが、予定に合わない子供達が沢山いた事もあり、今回は一族と雄禅会のメンバーで「てらスクール」を開催することができました。

一日の始まりは本堂にて開校式からです。参加者全員で般若心経を唱えてご住職の挨拶、今日の予定そして坐禅の仕方について説明をいただきました。心静めて身を正して坐禅教室の開始です。坐禅堂に移り順番に入室し、ご住職の指導に習って真剣な表情で坐禅に取り組んでいるようすです。「止静」小鐘を三声鳴らし坐禅開始堂内に、一瞬音が消え緊張感と安堵感が交差し、心地よい空間が生まれます。時計の針が三十分を過ぎたところでお子さんから警策を受けていました。「放禅鐘」小鐘を一声鳴らし坐禅終了です。静かに坐を解き、ご住職に習って退堂し作務に移ります。

作務は坐禅堂内、本堂廊下の雑巾がけをする方と山道の掃き掃除をする方に分けて行い、しっかりと額にも汗がにじむ頃には回りも綺麗になり、清々しい気持ちになったところで休憩です。

正午過ぎ参加者全員で本堂廊下に食事の準備が整い、デジカメ教室の講師を務めていただく金子文夫さんを迎えて全員一列にお庭側を向いて正座し、ご住職に習い食事を頂きます。目の前には風情あふれる贅沢な空間が広がり癒されてしまい、おしゃべりしながらも我に返って食べる事に徹する姿は大人の方と同様おいしそうに頂いている様子で頼もしく感じます。



一休みしてから本堂にてデジカメ教室の始まりです。金子文夫さんより自己紹介を頂きデジカメの種類や色々な撮影方法など、細かく砕いた説明をして下さり、皆さん興味深く聞いていた様子でした。質問時間にはピントのブレについてアドバイスを受け、いよいよ実践です。四十分間の制限時間内に境内、山道、ラカンの丘などからインパクトがあり面白い構図狙いで撮影されている方や楽しみなが工夫している方など興味に満ちた笑顔で、実践撮影が終わりました。指導講評の準備ができ、各人作品の狙いどころを発表して頂き指導を受けている様子は大人の

方でも子供の気持ちが蘇っていたのではないのでしょうか。

作品には子供の遊び心あふれるアングルから風景に香りを感ずるアングルなど幅広い作品が出来た様子でした。「てらスクール」一日楽しい夏休みを過ごせたような気がしますが、皆さんはいかがでしたか。

閉校式の時間となりましたので、朝と同じようにご住職に習い「普回向」を唱えてから、目面会長より挨拶を頂き、参加賞の授与を任職から受けました。

朝から夕方まで大雄寺で過ごして、人との触れ合う機会が生まれ次回も参加しようと思えたらいいです。沢山の方に体験して頂きたいと願っています。夕方から雨が降ってきて参加者全員が下山されたところで今年の「てらスクール」が終了しました。ありがとうございました。

毎年開校している「大雄寺 てらスクール」が今年も開校されました。「大雄寺てらスクール」は、坐禅や作務等のお寺修行体験に加えて、講師をお招きし特別授業を行ってまいります。去年の「将棋教室」に続き、今年は「デジカメ教室」を行いました。

講師には元コニカミノルタに勤めておりました金子文夫さんをお招き致しました。夏の暑い日差しの中、お寺の生活を体験し「デジカメ教室」の授業を楽しく受けることができ、夏休み一つの思い出となりました。



日加協会50周年特別記念



カナダのモントリオール日加協会と日本国際領事館の開設五十周年を記念するNPO法人桜和—OWA主催「桜和—OWA展」が六月二十六日から八月二十二日までカナダのモントリオールにて開催されました。「桜和—OWA展」の中では文化交流を図るため茶の湯、藍染めや三味線などの日本文化を伝えるワークショップが開催されました。今回のワークショップ「禅」の坐禅顧問として当山住職である倉澤良裕が参加致しました。

禅ワークショップに 寄せて

NPO法人桜和—OWA

代表理事 濱中 房枝

本年はカナダ国モントリオール日加協会と在モントリオール日本国総領事館の設立五十周年に当たる年でした。私共は日加協会主催、総領事館共催の

形で招へいされ、六月末からの二ヶ月間に亘り、延べ四十人のボランティアがカナダに渡りました。

北米のパリと呼ばれるモントリオールまでは成田から十数時間のフライト、住民の大半はフランス系とイギリス系の方々です。日本の伝統文化に基づく青少年育成と国際交流を活動主旨とする桜和と致しましては、漆、藍染め等の展覧会に加え「能」と「禅」のワークショップは必須のジャンルと思われました。大雄寺様には桜和設立当初より顧問として様々なご助力を頂いておりましたが、カナダはなんと頂いても地球の向こう側です。お引き受け頂けるかどうか、案じつつお願いいたしましたところ、お忙しい最中にもかかわらず快くご承諾頂きました。

禅ワークショップは世界で二番目に大きいモントリオール植物園の中に建てられた日本館で行われました。カナダで臨済禅のお坊様のセバスチャンさんが助手を務めてくださいました。畳の上に坐布を使って正式に坐れない方は椅子に坐り、御方丈様の説明を英仏語に訳しながらの座禅でしたが、本格的なご指導が受けられたと大好評でした。

この度の交流行事には七千二百名の参加者がありました。現地テレビ局、新聞の取材もお受けし、栃木県の後援を受け、那須塩原市長の親書をモントリオール、ポイントクレア両市長に届けすることができまして、ほっとしております。御方丈様が帰国される時

には、飛行機が離陸直前に引き返すというハプニングもありましたが、御陰様で大過無く大行事を終了できましたこと、皆々様に心よりお礼申し上げます。次第でございます。

合掌

黒羽中学校職業体験



十一月十六日から十九日にかけて黒羽中学校の生徒が職業体験のため来山致しました。

四日間で六名の中学生がお寺の生活を体験しました。読経、坐禅、作務（掃除）、拝観などを体験し、約六時間の職業体験を終えました。来山時には緊張と不安を抱えながら来山したように見受けられましたが、みなさんがそれぞれ一生懸命お寺の生活を体験致しました。

職業体験に寄せて

黒羽中学校二年

拝啓 木枯らしの季節となりました。

先日はお忙しい中、貴重な体験をさせていただきありがとうございます。お寺での体験はなかなかできないことだと思います。また、お話を聞いた

中で一番印象にのこっているのが、食べ物以外の動物の命をいただくことです。この言葉が一番印象にのこっています。今までにもらった命と、これからいただく命を一つ一つ大切にしていきたいと思えます。

本当にありがとうございました。

敬具

十一月二十五日

大般若法会・大施食会

今年も例年と同様に六月に大般若法会、十月に大施食会を厳修致しました。

大般若法会には災厄を消し去り、五穀豊穰や国家安寧を祈念し、人々を幸福な生活に導いて行くことを目的とした大法要であります。僧侶の方々は六〇〇巻もの大般若経を転読（経典をパラパラと滝のように読んでいくこと）し、大般若経の教えを体得致します。

今年の大般若法会、及び大施食会でも多くの檀信徒の皆様が参加する中、御寺院様方による読経とご詠歌構員の皆様による美しい声が境内に響き、厳かに法要が厳修されました。



ルネッサンス高校 坐禅研修

四月より約一年の期間、ルネッサンス高校の生徒の皆さんが坐禅研修のために大雄寺に毎週訪れております。暑い夏を終え、現在は凍てつく寒さの中、毎回五十名を越す生徒の皆さんが全国から来山し坐禅研修を立派に行っております。

教育の一つとして取り入れている。本堂で倉沢良裕住職の講話を聞いた後、40分ほど座禅をした。大半の生徒が初めてだったが、背筋を伸ばし神妙な表情で、静寂の時を過ごした。座禅を終えた生徒たち【大田 匠】茨城県大子町の通信制ルネッサンス高校の女子生徒約60人が12日、体験学習の一環として大雄寺で座禅を行った。同校は本年度、心の

「下野新聞 平成 22 年 5 月 15 日付より」



本堂で座禅をする高校生たち

写経奉納（観音祈願法会）

大雄寺には今年も写経会の皆様をはじめ、多くの方々から写経と一石一字経をお預かり致しました。一文字、一文字丁寧に思いを込めて書かれた写経と一石一字経にお経を唱え、合掌観音様に奉納させていただきます。



第11回 牡丹コンサート開催決定!!

来る平成 23 年 5 月 8 日、第 11 回牡丹コンサート開催が決定致しました。今回はテレビ、ラジオでも活躍の天上 昇氏にお越し頂き、竹笛とスタンウェイピアノを演奏して頂きます。大雄寺の境内に響く竹笛とスタンウェイピアノの癒しの空間をぜひ皆様も体感して下さい。どうぞご予約を済ませ、お誘い合わせの上ご来山ください。※ご予約・お問い合わせは大雄寺 ☎ 0287-54-0332 へ。

天上 昇氏プロフィール

福岡県北九州市八幡東区出身。作詞、作曲、シンセサイザー、竹笛奏者。過去、ロック・ポップス等のバンドにてピアノとボーカルで活動。その後音楽修業に渡米。帰国後「菩提樹」を結成し、コンサート活動を続け、NHK テレビ・ラジオ・衛星放送等の作曲、出演を続けている。また、CD・著書等を数多く販売し、コンサートや講演活動、神社仏閣での奉納演奏を続けている。

一口法話

Q 仏様の彫刻や絵画などには蓮の花が描かれています。蓮にはどんな意味があるのでしょうか。

A 蓮の古名は、蓮の実の入った花托（蓮房）の様子が蜂の巣に似ているところから「蜂巣（はちす）」と呼んでいたが、平安後期頃から現在の「蓮」と改名されました。

泥中に生じ汚れなく、幽香を漂わせる蓮の花は、清浄・柔軟・可憐から、他の植物にはない特徴があることから、仏教の象徴的意味を持つものとされ、仏像の蓮台などに彫刻され、また絵画などに描かれるようになりました。

普通の花は、まず花が咲いてから実をつけますが、蓮は花をつけると同時に実を中に詰めた苞が出てくることから蓮は、過去・現在・未来を同時に体現しているとされ、蓮を「蓮華の三徳」といい、仏の教えと重ね合わせています。

泥不染・泥水に生じてそれに汚染されず、清らかな花を咲かせる。仏性

花果同時・花の中に同時に実をもっている。発心即到仏果

種子不失・蓮の花は必ず実を結び、実は必ず発芽する。仏性の不滅

平成 23 年の主な行事

- | | |
|-----------|---------------|
| 1月1日より | 初詣 |
| 1月30日 | 節分会 |
| 3月2日 | 白旗不動尊大祭 |
| 3月18日～24日 | 春彼岸会 |
| 5月1日より | 牡丹開花 |
| 5月8日 | 花まつり |
| 5月8日 | 第11回牡丹コンサート開催 |
| 6月8日 | 大般若法会 |
| 8月13日～16日 | 盂蘭盆会 |
| 9月20日～26日 | 秋彼岸会 |
| 10月1日 | 大施食会 |
| 12月18日 | 観音祈願法会 |
| 12月31日 | 除夜法会 |

※随時拝観、法話、坐禅研修会を開催しております。

大雄寺プチ修行

お寺の生活を半日体験できます。

希望される方は「朝の修行」または「夕刻の修行」を選び、事前にお問い合わせください。

<朝の修行>

上山

6:30	坐禅の説明
6:45	暁天（坐禅）
7:15	朝課（読経）
7:35	作務（清掃）
8:05	拝観・回向之証授与

下山

<夕刻の修行>

上山

14:45	坐禅の説明
15:00	作務（清掃）
15:30	夜坐（坐禅）
16:00	晩課（読経）
16:20	拝観・回向之証授与
16:55	大梵鐘八声（鐘つき）

下山

日曜坐禅会

毎月第2・第4日曜日午前7時30分～

※初心者の方は事前にプチ修行体験が必要になります。

毎月2度、忙しい日常から抜け、禅堂でただ坐禅を組んでみませんか？

7:30	止静（坐禅開始）
8:15	作務（清掃）
8:30	下山または茶話会

写経会

毎月第1火曜日午後1時～

お寺で写経をはじめてみませんか？

写経の歴史は古く、奈良時代から行われていると言われております。

古くから「五穀豊穰」、「修行のため」、「病氣治癒」、「先祖供養」等の目的のため写経は行われておりました。現在は「集中力をつけたい」、「心を落ち着かせたい」、「字が上手になりたい」等のために写経を始める方も増えているかと思えます。「字が下手だから」とか「信仰心が深くないから」と遠慮される方もいらっしゃるかと思えますが問題ありません。一度、姿勢を正し一文字一文字ゆっくり丁寧に写経をしてみましょう。

読経会

毎月第1火曜日午前9時～

「西遊記」で知られる三蔵法師のモデルである玄奘三蔵が天竺（インド）から持ち帰り漢訳したお経「般若心経」を声にだして読んでみましょう。読経会では親しみの深い般若心経やその他のお経を月に1度、大雄寺本堂にて住職と一緒に唱えしております。

ご詠歌教室

ご詠歌とは仏教の教えを5・7・5・7・7の和歌として旋律に乗せて唱えるものがあります。大雄寺では講師として瑞雲院住職齊藤義雄老师をお招きし、どなたにも唱えられるよう丁寧にご教授頂いております。大般若法会や大施食会では毎年ご詠歌講員の皆様が美しい声を境内に奏でております。

問合せ先

黒羽山 大雄寺 ☎ 0287-54-0332

大雄寺ホームページ 詳細説明、一口法話、お知らせページ、掲示板など掲載

URL <http://www.daiouji.or.jp/>
E-mail ryoyu@daiouji.or.jp